

“将来都市像”及び“まちづくりの基本テーマ（理念）”に対する策定委員意見

将来都市像について

「潤い」について	<ul style="list-style-type: none"> ○「潤い」という言葉は、市民がイメージしづらく、分かりづらいのではないか。もし、採用するなら「潤い」が何を指しているのか注釈を入れるなり、説明文をもう少しわかりやすくする必要がある。 ○桐生市は昭和 61 年に自治大臣から「潤いのあるまちづくり」における優良団体として表彰されており、それにまつわる様々な事業を当時行っていた経緯があり、「潤いのまち」というフレーズに古いイメージを持つ人もいる。 ○「潤い」が贅沢な時間や空間を指しているとしても、桐生では贅沢な時間や空間を味わうことができると認識している市民が少ない中でそれを理解してもらえるか。シティブランディングでまちの良さを再認識してもらおうということを始めようとしているところではあるが、そういったことが分かって初めて理解できることではないか。
「桐生らしさ」について	<ul style="list-style-type: none"> ○現行の「伝統と創造、粋なまち桐生」には「伝統」や「粋」など桐生らしいキーワードがあるが、候補案は桐生らしいキーワードが弱く、現行の都市像と比べると弱く見える。 ○「粋なまち桐生」という言葉には市民性、市の特性、市民の意気込みが感じられ、また「伝統と創造」のニュアンスも含まれていると思う。「粋なまち桐生」だけでも桐生の伝統やこれからの桐生の姿が十分に表せる。今までの桐生の市民性を持ったまま、まちが変わっていくのが一番良いと思うので、「粋なまち」という言葉を残してもよいのではないか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○現行の「伝統と創造、粋なまち桐生」から「感性育み 未来紡ぐ 潤いのまち桐生」に一新するなら、市民にその理由を明確に説明できなければならない。

まちづくりの基本テーマ（理念）について

<p>「①“つながり”を生かしたまちづくり」について</p>	<p>○2文目「“ひとつごと”ではなく」は必要あるのか。 ○桐生市内だけで完結しており、外といかに関わるのかという部分が見えない気がする。外との繋がりを表現するフレーズ等があってもいいのではないか。</p>
<p>「②“感性”を育むまちづくり」について</p>	<p>○2文目「感性が豊かな人は、人の心が分かる心豊かな人であり、新たな発想を持った創造力あふれる人です。」と断言できるか。この一文は無くても良いのではないか。 ○「感性」という言葉を一般市民が聞いた時にどのように感じるかを考えなければならない。また、「感性とは何か」を説明できなければならない。「感性を育むまちづくり」という言葉を見た時に、どう考えてもらえるかというところを踏まえて、説明文をより理解してもらえるように検討しなければならない。</p>